

令和8年2月25日
国土交通省関東地方整備局
港湾空港部

「第20回 京浜港物流高度化推進協議会」を開催

京浜港における物流を取り巻く現状を共有し、物流の効率化・高度化に向けた取組を一層深化させるべく、「第20回 京浜港物流高度化推進協議会」を開催しました。

京浜港物流高度化推進協議会は、平成18年度に設置して以降、京浜港における港湾物流の効率化・高度化を図ることにより、我が国産業の国際競争力強化に寄与することを目的に、多様な関係者による協働の取り組みを推進してきました。

今般、京浜港における物流を取り巻く現状を共有し、物流の効率化・高度化に向けた取組を一層深化させるべく「第20回 京浜港物流高度化推進協議会」（委員長：二村 真理子 東京女子大学教授）を下記の通り開催しましたので、その議事概要についてお知らせします。

日時：令和8年1月27日（火） 14:00～16:00

場所：横浜第二合同庁舎1階 共用第1会議室

委員：別紙1のとおり

議事概要：別紙2のとおり

<発表記者クラブ> 竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 横浜海事記者クラブ 物流専門紙 その他専門紙

<問い合わせ先>

関東地方整備局 港湾空港部

電話：045-211-7437 メールアドレス：info-i83ab@mlit.go.jp

港湾高度利用調整官 古川（ふるかわ）（内線：5945）

クルーズ振興・港湾物流企画室 室長 福本（ふくもと）（内線：5729）

クルーズ振興・港湾物流企画室 課長補佐 大木（おおき）（内線：5773）

京浜港物流高度化推進協議会 委員名簿

(順不同・敬称略)

所 属	役 職	氏 名
(学識経験者)		
東京女子大学	現代教養学部 教授	二村 真理子
中央大学	経済学部 教授	山崎 朗
筑波大学	システム情報系 教授	岡本 直久
専修大学	商学部 教授	岩尾 詠一郎
東京海洋大学	海洋工学部 教授	渡部 大輔
(民間事業者)		
(一社)日本経済団体連合会	産業政策本部 上席主幹	脇坂 大介
(一社)日本貿易会	政策業務第二グループ グループ長	角田 和雄
日本機械輸出組合	理事	多田 正博
日本貨物鉄道(株)	鉄道ロジスティクス本部営業部国際 営業グループ グループリーダー	久保田 聡
(公社)全日本トラック協会	海上コンテナ部会部会長	藤木 幸二
(一社)日本船主協会	物流システム幹事会アドバイザー	加瀬 崇
外国船舶協会	専務理事	村瀬 千里
日本内航海運組合総連合会	コンテナフィーダーWG 座長	井本 隆之
(一社)東京港運協会	常務理事	今村 秀彦
川崎港運協会	常務理事	奈雲 義典
横浜港運協会	常務理事	水上 裕之
関東倉庫協会連合会	常務理事	鶴元 岳志
関東冷蔵倉庫協議会	会長	武田 信一郎
輸出入・港湾関連情報処理センター(株)	取締役	鈴木 文浩
(港湾運営会社)		
横浜川崎国際港湾(株)	企画部 企画部長	石原 正豊
(行政関係者)		
東京都港湾局	港湾振興担当部長	原田 幸定
川崎市港湾局	港湾経営部長	木村 俊介
横浜市港湾局	港湾物流部長	竹内 紀充
財務省東京税関	総務部長	松田 真吾
財務省横浜税関	総務部長	田平 浩
経済産業省関東経済産業局	産業部長	小澤 元樹
警視庁交通部	交通規制課長	金子 賢司
神奈川県警察本部交通部	交通規制課長	金丸 傑
国土交通省関東運輸局	交通政策部長	矢吹 尚子
国土交通省関東地方整備局	港湾空港部長	内藤 孝

第20回 京浜港物流高度化推進協議会

議事概要

■開催日時 令和8年1月27日(火) 14:00~16:00

■開催場所 横浜第二合同庁舎1階 共用第1会議室

■委員 別紙1のとおり

■議事

- (1)京浜港における物流を取り巻く状況について(事務局)
- (2)研究紹介:港湾・コンテナに関するトピック(海洋大学 渡部委員)
- (3)貨物鉄道における海上コンテナ輸送の現状と課題について(JR貨物 久保田委員)
- (4)内航コンテナ輸送について(井本商運 井本委員)
- (5)意見交換

■概要

事務局より、議事(1)による説明をした後、3名の委員から議事(2)~議事(4)について、各種取組の必要性や課題に関して発表を行い、意見交換を行った。

■委員からの主な意見

- 令和7年8月と同年11月に、横浜港本牧BCターミナルにおいて実施されたCONPASの原則予約の試験運用では、予約率90%以上と高い予約率であるとともに、原則予約による待機時間の平準化効果を確認できた。令和8年3月にも実施を予定している原則予約や今後の展開に期待している。
- サイバーポートなど新しい取組みは、多くの荷主が参加し利用していくことが大事であり、そのためには経営者に対するメッセージ発信の強化も重要な要素の一つである。
- 欧州直行便が消滅したことについて、欧州向け貨物は釜山シャトル便により直行便と同程度のサービス水準が維持されるとの情報提供があったが、直行便がなくなったことは非常に残念。
- アジア港の中でも日本が地理的優位性のある北米航路や中南米航路をしっかり維持することが重要。
- コンテナラウンドユースや海上コンテナの内貨転用の拡がりに期待している。
- 内航フィーダーや鉄道フィーダーといった輸送手段を使ってより環境負荷を低減することは重要。
- 内航フィーダーや鉄道フィーダーはコンテナターミナルとの接続の点で取り組むべき課題が多い。
- トレーラの自働運転やCY内自働化を考えた時、オンシャーシデポは重要な施設となり得る。

■二村委員長によるとりまとめ

- 事務局より、京浜港を中心とした各種政策の取組状況について報告があり、先進的な取組みが進んで

いることを再認識した。各議題では、渡部委員からインランドデポや DX の重要性について発表があった。久保田委員から令和 6 年度に関東地方整備局と実施した宇都宮貨物ターミナルと横浜本牧駅間の貨物鉄道による海上コンテナ輸送の継続やモーダルシフトについての発表があった。井本委員から内航コンテナ輸送の重要性と課題などについての発表があった。それぞれの分野で非常に苦労しながら、先進的な取組と課題克服が進んでいることが共有できた。

■ 協議会状況写真



【開催状況】



【協議会全景】